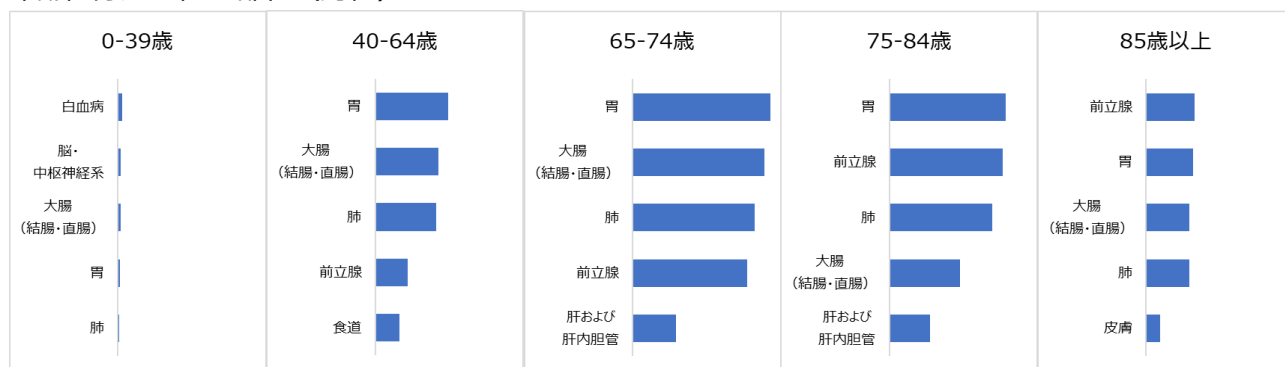
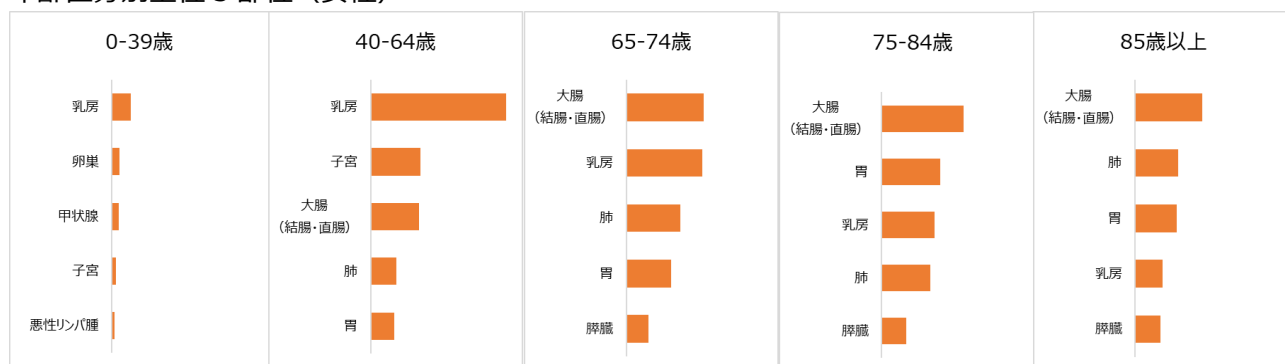


全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2017年）

年齢区分別上位5部位（男性）



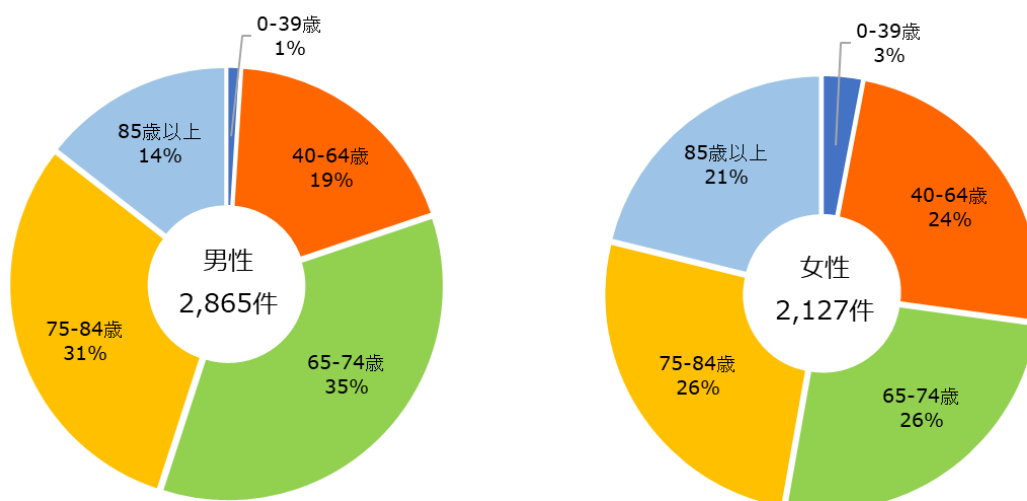
年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、白血病が最も多く、次いで脳・中枢神経系、大腸、胃、肺。40-64歳代では、胃が最も多く、次いで大腸、肺、前立腺、食道の順であった。65-74歳代では、胃、大腸、肺、前立腺がおしなべて多く、次いで肝、75-84歳代でも、胃、前立腺、肺、大腸がおしなべて多く、次いで肝、85歳以上では、前立腺が最も多く、次いで胃、大腸、肺、皮膚の順。

女性の0-39歳代では、乳房が最も多く、次いで卵巣、子宮、悪性リンパ腫の順。40-64歳代では、乳房が最も多く、次いで子宮、大腸、肺、胃、65-74歳代では、大腸が最も多く、次いで乳房、肺、胃、膵臓、75-84歳代でも大腸が最も多く、次いで胃、乳房、肺、膵臓、85歳以上では、大腸が最も多く、次いで肺、胃、乳房、膵臓の順。

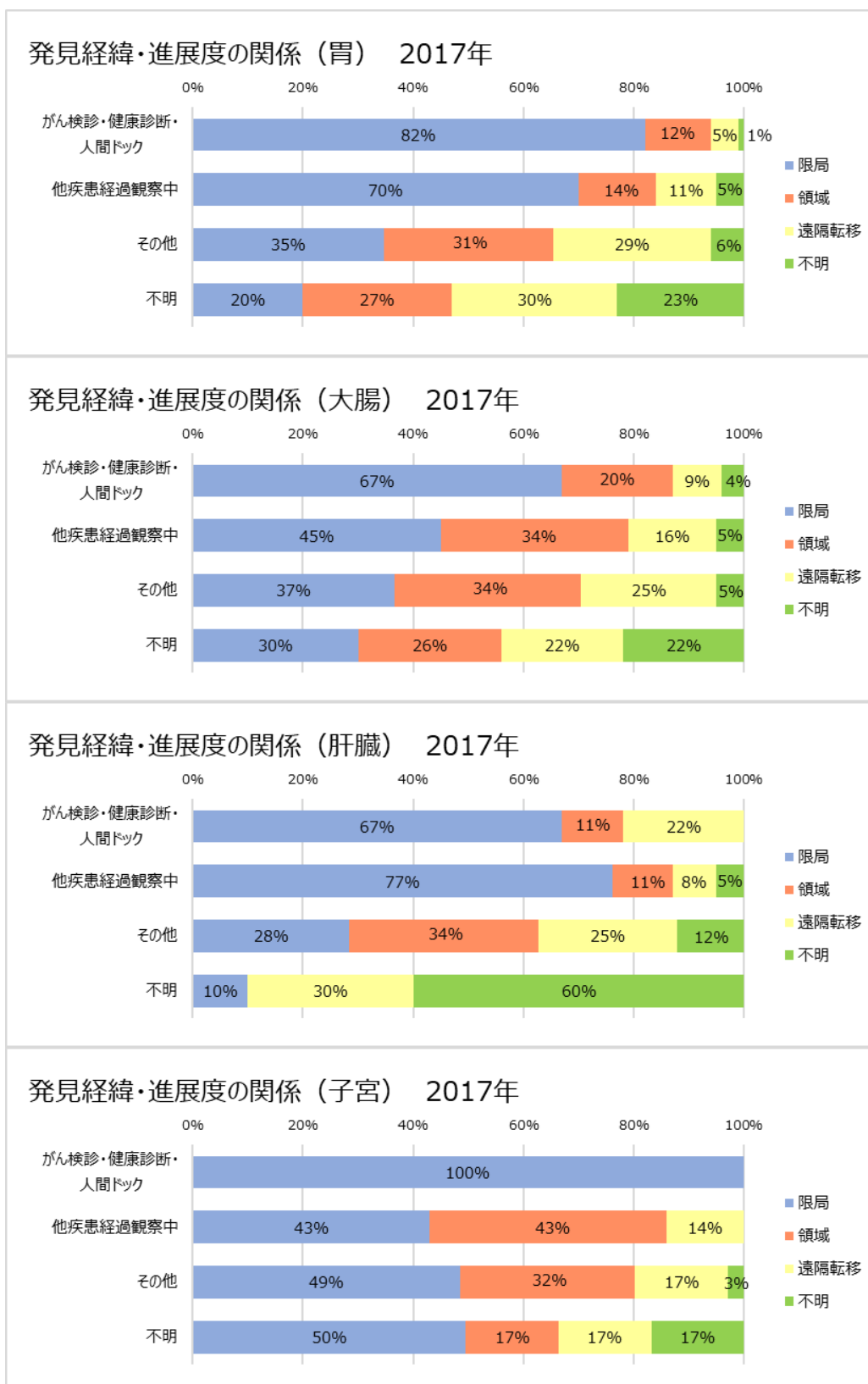
年齢5区分割合（%）



発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められていますが、肝臓においては遠隔転移の割合が22%と他の部位に比べ高い値を認めています。

子宮においては、がん検診・人間ドック・健康診断において限局割合が100%と高い値を認めています。

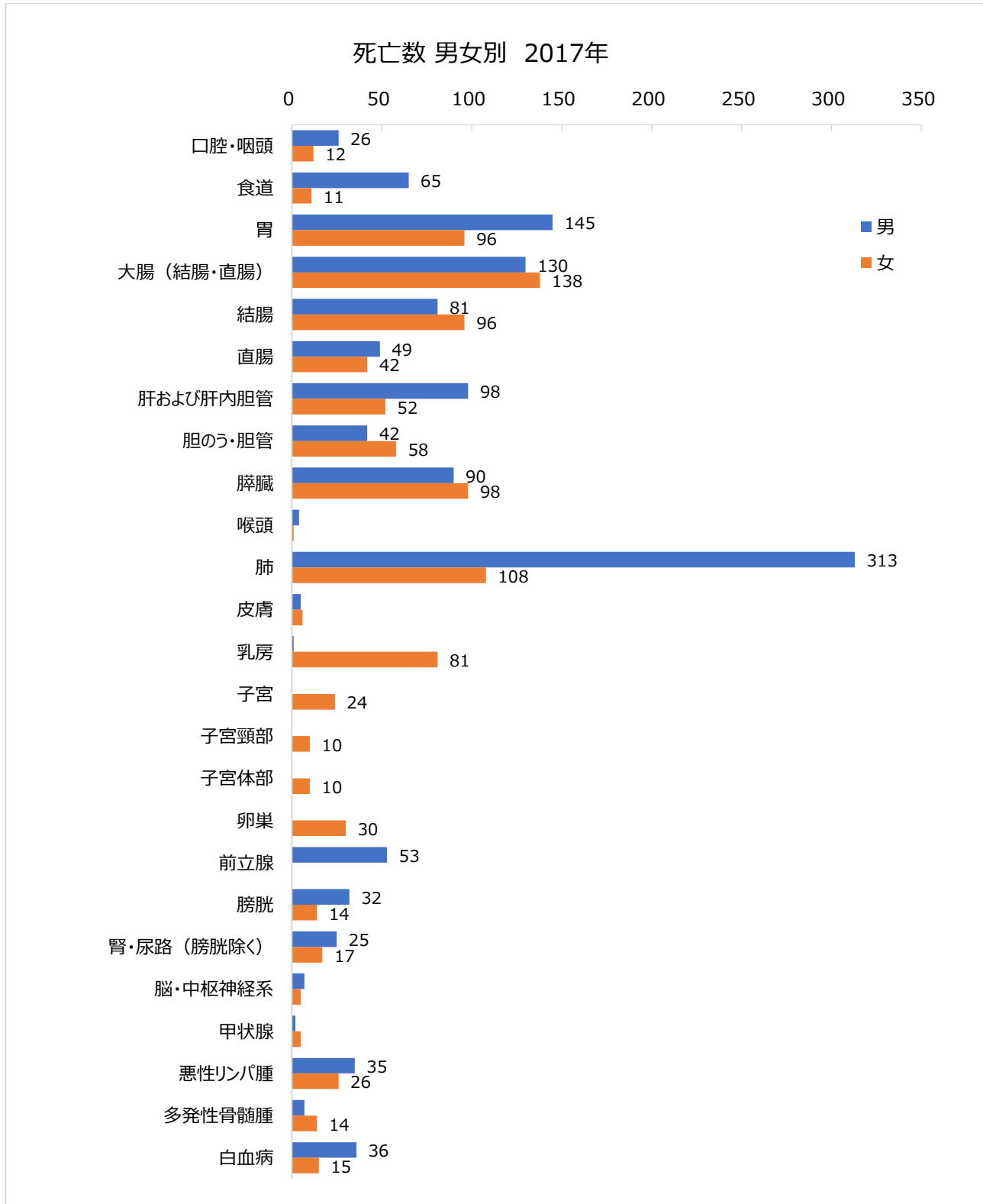


* 参考資料 *

死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,151人、女性852人、合計2,003人となっている。

部位別には、男性は肺（313人、27.2%）が最も多く、次いで胃（145人、12.6%）、大腸（130人、11.3%）の順となっている。また、女性では大腸（138人、16.2%）が最も多く、次いで肺（108人、12.7%）、膵臓（98人、11.5%）、胃（96人、11.3%）の順となっている。



年齢調整死亡率 全国比較 2017年

